



## 天然記念物

しんぐうじんじゃ

### 78. 新宮神社のスギ

■指定年月日 昭和48年6月5日(1973)

■寸法 樹高31.0m 幹周(胸高)6.54m

■所在地 若山町大坊17-90

■所有者 新宮神社

新宮神社の境内の中ほどに立つ巨樹で、土地の人が、「大杉」と呼んで崇めている神木である。

このスギは、枝張りが特異な木で、地上5m付近から上に<sup>ほうき</sup>箒状に枝を張っている。枝のつけねの樹幹がもりあがって、そこから力強い太枝が伸び出し、無数に枝分かれをしている姿は壮観で、仰ぎ見る者に威圧感をあたえる。

樹勢の旺盛な木で、離れてみると細かな葉がうっそうと繁って境内を覆い、下から見上げた姿とはまた違った印象を受けるであろう。以前は手の届くほどの高さにも枝先が下がっていたが、周りの樹木の成長に圧迫されて、下枝の枯死が進んでいる点が、気がかりである。

スギは、青森県下北半島から鹿児島県屋久島まで、それに平地から山地まで広く生育しているが、生育環境によって変異種が生じやすい特徴がある。このスギのような枝ぶりの種に、ムレスギ(叢杉)という希少種がある。しかしムレスギは、このような老巨木にならないとされており、このスギがムレスギであるのか結論はでていない。

『石川県の巨樹』(石川県林業試験場1982)によれば、県内のスギ巨木のなかで、18位にランクされている。